

# 史跡岡山城本丸下の段 発掘調査現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成27年10月24日（土）13：30～15：00

場所：岡山市北区丸の内2丁目（史跡岡山城跡）

## はじめに

岡山市教育委員会では、史跡岡山城跡保存整備事業の一環として、平成27年9月から本丸下の段の発掘調査を行っています。本年度は下の段西側の内堀内石垣と平成25年度に調査した旗櫓に隣接する石垣の構造や保存状態を明らかにするための調査を進めてきました。調査も終盤にはいり、このたびの調査で発見された遺構や遺物を公開することとなりました。

## 調査の成果

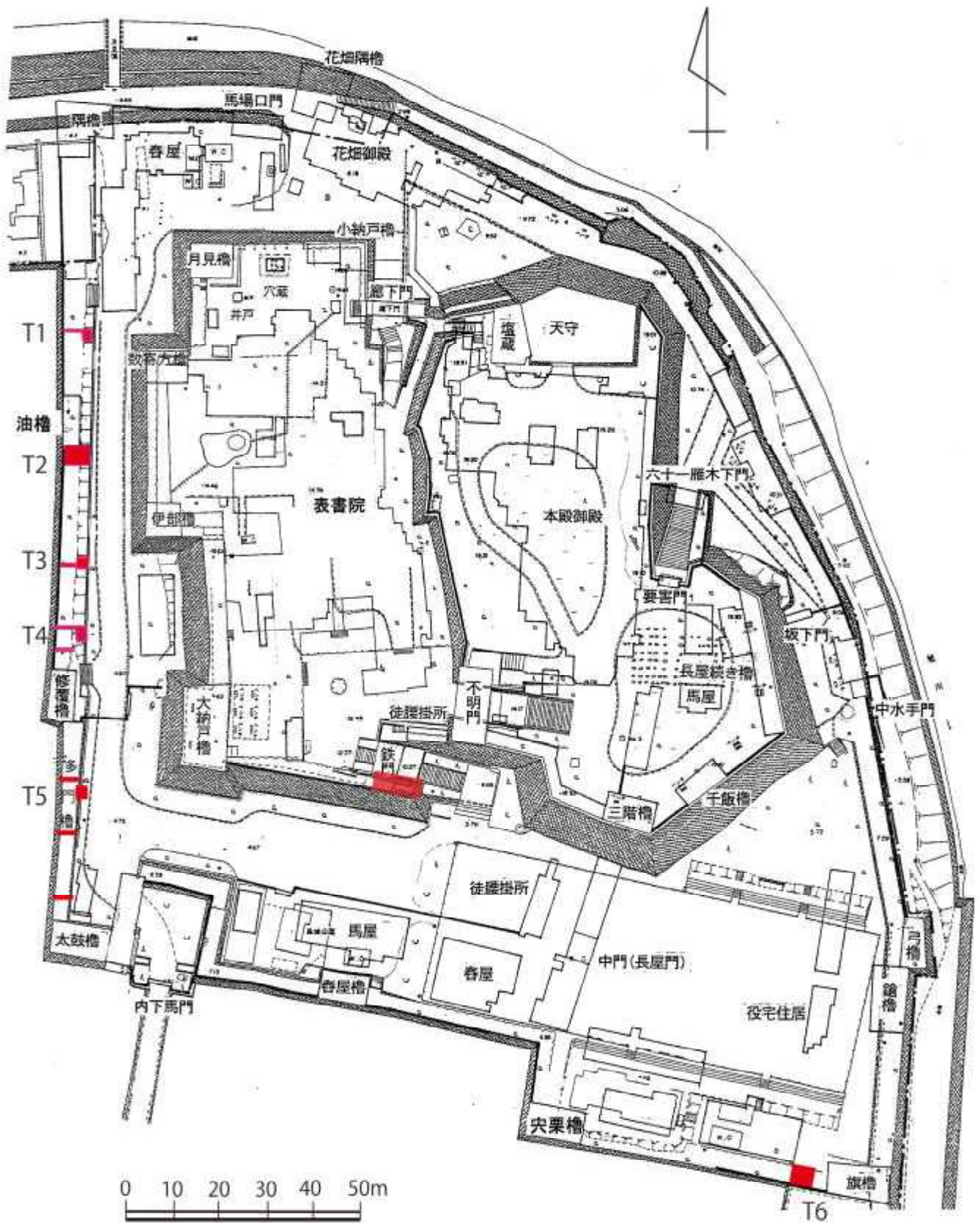
### 【T1～T4】

この石垣は現在では土手状に埋められ桜並木となっていますが、『御城内御絵図』（元禄13年）などの絵図では石垣の上に土塀が築かれているようすが描かれています。今回の調査では修覆櫓から油櫓、隅櫓へと続く地点に4カ所の調査区を設け石垣の確認を行いました。その結果、各調査区とも、高さ2.5mから3mほどの石垣が良好な状態で残されていることが確認されました。また、石垣上面の内堀側では土塀の基礎部分が見つかりました。

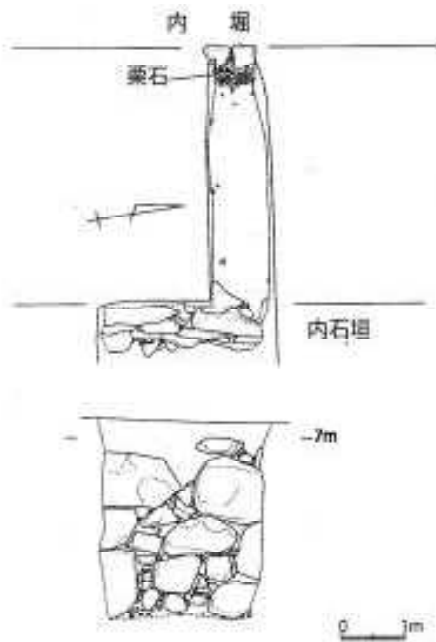
この石垣は江戸時代の初期に築かれたものとみられ、その後明治時代以降に埋められたものと考えられます。なかでもT1では大量の瓦で埋められており、その中から鯨（しゃちほこ）の破片も出土しています。



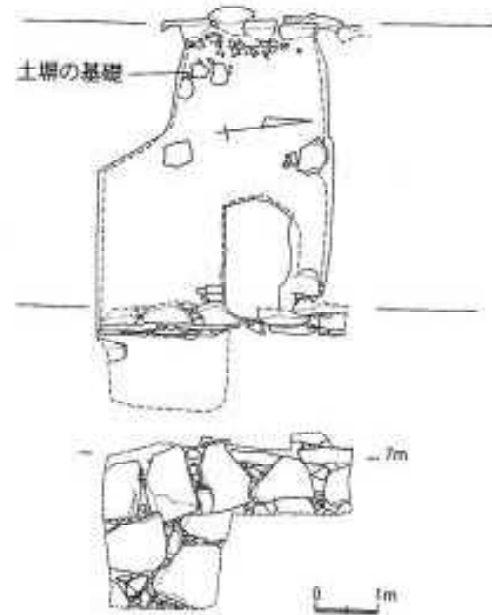
左から修覆櫓・多門櫓・太鼓櫓



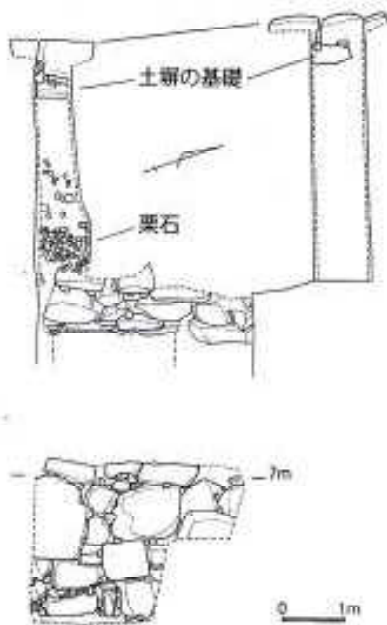
調査区配置図



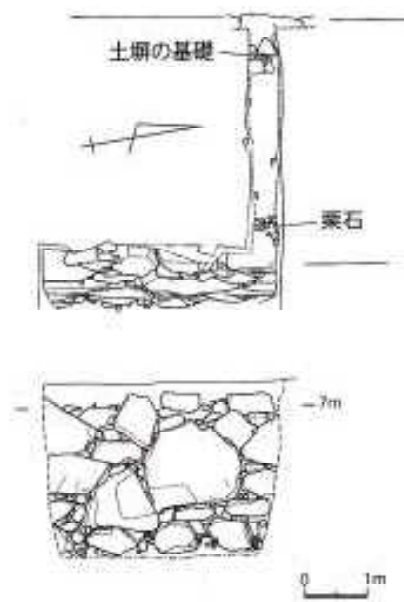
T1 平面・立面図



T2 平面・立面図



T3 平面・立面図



T4 平面・立面図

### 【 T 5 】

内下馬門の西隣にある太鼓櫓から修覆櫓までは多門櫓で結ばれていました。多門櫓とは長屋建ての櫓でこの建物は写真が残されておりその景観を知ることができます。石垣は現在でも目にすることができますが、さらに地表から1mほどの深さまで確認することができました。石垣の前面には石組の溝があったことが明らかとなったほか、石垣上部では10cmほどで栗石層が確認されます。



### 【 T 6 】

平成25年度に調査した旗櫓に隣接する石垣です。上部は近代のゴミ穴などで掘り返されており、裏込の栗石がかき出された状態で見つかりました。この石垣には比較的小ぶりな石材が用いられており、基底部から大きくせり出していることなどからも、時期は明らかではないものの積み直しが行われたものと考えられます。

